



愛川ふれあいの村 今月の風景

2023年6月 自然のたより

東海地方までは、ずいぶん早い梅雨入りでしたが、関東地方も6月8日ようやく梅雨入り宣言です。村では夏のキビタキやホトトギスが鳴き、足元では黄色が鮮やかなミヤコグサや薄紫のホタルブクロが雨に濡れながら可憐な花を咲かせています。動植物にとって大切な雨も時に災害をもたらすこともあります。人間の営みが異常気象や温暖化などを引き起こす原因の一つと言われて久しい。地球上の全ての生き物が、大きい生態系の中で、それぞれが関わり合って生きています。人間も例外ではありません。(高梨)



県花、ヤマユリ



トゲカメムシ



夜間に活動するムササビ



エビイロカメムシ



チャバネアオカメムシ



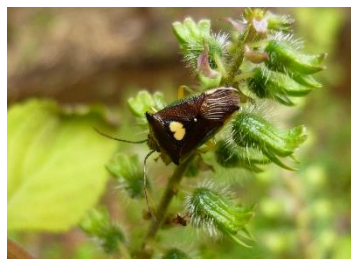
青い虫ラミーカミキリ



コフキゾウムシ



スパイシー臭マルカメムシ



エサキモンキツノカメムシ



ホシハラビロヘリカメムシ



アカスジキンカメムシ



サンコウチョウ



シジュウカラ



さえするキビタキ



ハクセキレイ子育て中

トピックス ★果実の酸味で★

果実がおいしい季節になりました。この時期、村には「すもも」と「びわ」の実がたくさん成ります。ところでみなさんは、「すもも」と「プラム」と「プルーン」の違いをご存知でしょうか。

「すもも」はバラ科の果実です。中国原産が「日本すもも」、コーカサス原産が「西洋すもも」と呼ばれ、原産地によって2種類に分かれます。「すもも」の英名は「Japanese plum」なので、「plum (プラム)」とも呼ばれます。また、仏名は「prune (プルーン)」とも呼ばれます。したがって、「すもも」は「プラム」と呼んでも「プルーン」と呼んでもいいことになります。ところが日本では、丸い「日本すもも」を「プラム」、少し細長い紫色の「西洋すもも」を「プルーン」と呼んで、なんとなく区別しているようです。つまり、私たちが「すもも」「プラム」と呼んでいるのは「日本すもも」のことで、「プルーン」と呼んでいるのは「西洋すもも」だということです。

実は甘く、皮は酸っぱい「すもも」は、一度で二度楽しめて私は好きなのですが、甘いほうが好きな方もいますよね。皮にはポリフェノールや食物繊維が多く含まれているので、皮ごと食べるといいことだらけですが、甘くするには「追熟」がおすすめです。

「すもも」は完熟してから傷むまでが早いので、スーパーなどでは食べ頃より少し前の、硬く酸っぱい状態で売られています。そのような「すもも」は、常温保存で2〜3日ほど様子を見ながら、熟すのを待ちます。「皮が全体的に赤みを帯びている」「触るとやわらかい」「良い香りがする」ことが、完熟している「すもも」のポイントです。この暑い時期を、果実の酸味や爽やかさで乗り切りましょう。(三好)



生き物 ★好まれざるもの★

愛川ふれあいの村には、あまり好まれない生き物もいます。梅雨の時期に多く遭遇する「ヤマビル」もその一つ。雨上がりに草むらなどで活動していると、ズボンや靴下が血で赤く染まり、ヒルに血を吸われたことに気付くことが多いです。

ヤマビルは、「ヒルジン」という血を固まりにくくする物質と、痛みを感じさせない物質を出して血を吸うようです。特に毒性はないですが、なかなか血が止まらないため、傷口を流水などできれいにしただと、絆創膏などで止血してください。

元々は山奥でひっそりと血を吸って生活していたものが、環境の変化などで吸血対象の動物たちと一緒に人里近くまでやってきたことで、私たちがヤマビルの被害に遭う機会が増えてしまったようです。

そもそもの原因が私たちにもあると考えると、血を吸われるのも仕方ないことなのかもしれません。(袖山)



旬 ★枇杷(ビワ) ジャムを作る ★

体育館の横の土手や通称、果樹園に合わせて5本ビワの木があります。木によって早い遅いはあるが、黄色から、ややオレンジ色に変わり始めました。私が生まれた東北地方にはあまりなじみのない果物です。皮を爪でスーッとむいて口に含むと上品な酸味と甘さが広がります。生食でも美味しいがジャムに挑戦です。皮をむいて半分に切って種を取ります。気をつけるのは空気に触れると茶色に変色するので、水に浸けること。

あとはビワの重さの30%の砂糖を入れてコトコト煮るだけ。仕上げにレモン果汁を絞って完成です。

是非、お試しあれ。(高梨)



来月の見どころ
カメムシマスターになろう
カメムシの名の由来は、形が亀の甲羅に似ているから。ストロー状の口器でカボチャ、ピーマン、枝豆など野菜類をよく食べる。洗濯物に付着することもあり、害虫と呼ばれる事が多い。その種類数は、約千三百といわれている。ミズキの葉に良くいたエサキモンキツノカメムシは葉を食べつくすほど大発生したキアシドクガの影響で少なくなってしまった。大発生したキアシドクガがなぜか今年はあまり見られない。とても不思議な出来事です。ハートマークのエサキモンキツノカメムシを道端で拾った時、クロオオアリがついてきて「これは僕のだよ」と足を突っ張り放さないので地面に置くかと喜んで持って行った。カメムシは臭いというイメージがあるが切手のデザインになったアカスジキンカメムシはあまり匂わない。カラメルやスパイシーの香りがする虫もいる。小さな生き物を発見し地域の虫の特性と不思議を調べよう。(吉田)